

令和4年度 総合型選抜
芸術体育・生活系専攻 保健体育実技検査実施要領
器械運動

課題：マット運動の演技

「内容」

ロングマット上で以下の演技を実施する。

倒立前転—ジャンプ 1/2 ひねり、伸膝後転、開脚後転、正面水平片足立ち（2 秒静止）、一歩踏み出してホップ—側方倒立回転—開脚前転

「ねらい及び評価の観点」

マット運動の基礎的な技能を見る。具体的には個技および技の組合せの技術的实施レベルと、演技全体のリズムや流れを総合評価する。

陸上競技

課題1:ハードル走

【内容】

クラウチングスタートから、スタートダッシュ、そしてハードル2台目までのハードル走の試技を行う。

【ねらい及び評価の観点】

スタート、スタートダッシュやハードルの跳び越し方などの技能の習熟度と走力、また、それらの技術やルールについての理解度をみる。

スタートから2台目のハードルの真上までのタイムを測定するが、そのタイムは評価の参考資料とする。

課題2: 立ち三段跳び

【内容】

着地用のマットの踏切り側の端から5m、6m、7mの距離に踏切り線を設け、受験生各自の選択した踏切り線から立ち三段跳びを行なう。

踏切りは踏切り線に爪先がかからないように平行に置いた両足で行い、2跳目は右足または左足で、3跳目は2跳目と逆足で跳ぶ。跳躍距離は、着地したマット上の最も踏切り線に近い着地点から踏切り線（踏切り側）までを計測する。

【ねらい及び評価の観点】

踏切準備、踏切、ホッピングや着地などの技能の習熟度と跳躍力をみる。両足踏切りから、ステップ、ジャンプと逆足で跳躍するルールについても理解度を確認する。なお、跳躍距離は、評価の参考資料とする。

2022年入試 バレーボール課題

ねらい「バレーボールにおける個人技能（パス、レシーブ、スパイク）と総合技能（ゲームにおけるオンザボールスキル、オフザボールムーブメント）のパフォーマンスを評価する。」

①直上でのオーバーハンドパス、アンダーハンドパス

- 床に 1.5m四方の正方形の枠をつくり（ラインテープを貼る）、その中で直上でのオーバーハンドパスとアンダーハンドパスをそれぞれ行う。
- オーバーハンドパスだけ 20 秒間、アンダーハンドパスだけ 20 秒間行い、回数をカウントする。ラインを踏んだり枠を出た場合はカウントしない。

②1人手上げスパイク

- ネット手前に手上げでトスを上げ、それをスパイクする。試技は1人5回。

③総合技能（ミニゲーム）

- 男女別で3対3のミニゲームを数分行う。受験生でチームを組み、大学生チームとゲームをする。
- ◆ ネットの高さは女子 2m15 cm、男子 2m30 cmとする。

令和4年度 総合型 保健体育実技 バスケットボール

課題1：連続シュート

「内 容」

フリースローレーン内のゴール手前からシュートを行い、次に右側からシュート、さらに左側からシュートを行う。その後、左右のシュート動作を交互に連続して素早く繰り返す(20秒間)。

「ねらいおよび評価の観点」

シュートの正確性、ゴールしたの素早い反応及び身体のクイックネスを見る。リバウンドボールに素早く反応・移動してシュートできているかどうかの評価の観点となる。

課題2：ドリブルシュート

「内 容」

センターラインからゴールに向かって、等間隔に並べられたコーンの間をぬって右手でドリブルをし、レイアップシュートを行う。その後、シュートされたボールを拾い左手でゴールからセンターラインに向かってドリブルをする。左右両方行う。

「ねらいおよび評価の観点」

ドリブル技能の正確性及びドリブルからシュートの連続性を評価する。評価の観点は、ボール操作の巧みさ、ドリブルからシュートへの動きのスムーズさ、シュートの正確性である。

課題3：ハーフコートでゲーム

「内 容」

ハーフコートで3 on 3のゲームを行う

「ねらいおよび評価の観点」

攻撃及び防御の総合的能力を評価する。評価の観点は、攻守の個人技能及び戦術行為である(ルール理解も含む)。

令和4年度 総合型 保健体育実技検査 サッカー

課題1：スキルテスト

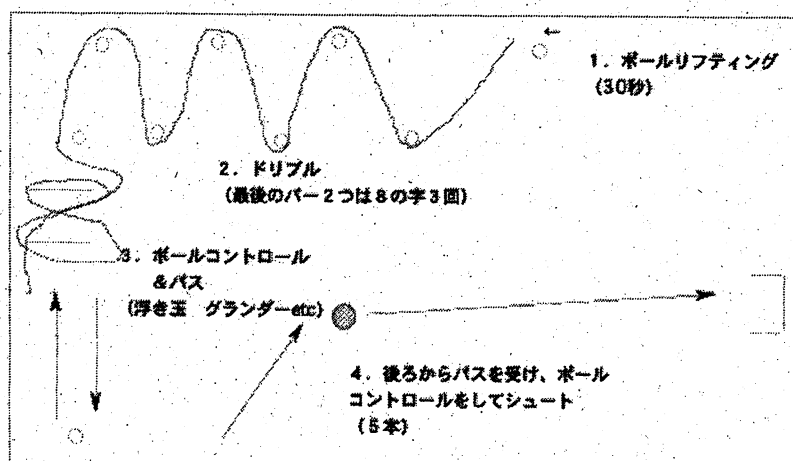
「内容」

ボールリフティング、ドリブル、ボールコントロールおよびシュートを連続して行う

(3から4は3が終了後 シュートをうってから5本連続)

「ねらいおよび評価の観点」

サッカーにおける基礎技術の習熟度を見る



課題2：1対1 (ゴール付き)

「内容」

オフenseの1対1を行う (ディフェンスは補助学生)
オフense側はゴールもしくはシュートするまで
ディフェンス側はボールを奪って補助学生にパスするまでのいずれかのプレーが行われるまで続ける

「ねらいおよび評価の観点」

対人プレイの基礎的能力をみる

課題3：ゲーム

「内容」

4対4もしくは5対5 (受験生の人数による) でのゲームを行う。
人数のバランスにより補助学生が入ることもある

「ねらいおよび評価の観点」

サッカーにおける総合的能力を見る (ルール理解も含む)